

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	とっとりけんりつとつとりにしこうとうがっこう				②所在都道府県	鳥取県
27～31	①学校名	鳥取県立鳥取西高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制課程普通学科普通科	
普通学科	319	318	321	-	958	1年319人 2年318人 3年321人 (合計958人)	
⑥研究開発 構想名	地域・世界とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発 の概要	本校の目指すグローバル・リーダーに必要な思考力・コミュニケーション能力・情報活用能力等の知的能力、社会の種々の場面で活用できる実践力、および探究心や協調性などの姿勢・態度を「協同的・探究的な学習」「課題研究」「海外交流」等により養うためのカリキュラムや手法を実証的に研究する。						
⑧研究開発 の内容等	⑧-1 全体	<p><b>(1) 目的・目標</b> 本研究では、全校生徒を対象にグローバル・リーダーに必要な知的総合力、および探究心や協調性や行動力などの姿勢・態度の育成に効果的なカリキュラム開発に取り組む。特に、「グローバル化の中の地域創生」を課題研究のテーマとして、地域・世界につながり、探究的な活動を通じて、行動力と創造力をもって問題解決に臨める人材を育成する。</p> <p><b>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</b></p> <p>・現状と課題 現在、社会はグローバル化し、過疎化する地方の問題や経済格差の問題など、従来の視点や手法では対応の難しい課題も多く、その解決に向けて他者と協同しながら、新しい価値を創造できる力が求められている。本校では、平成24年度より「協同的学習」、平成25年度より「課題研究」等に取り組んできたが、効果的なカリキュラムの開発に課題があり、実践的研究の深化が必要である。</p> <p>・研究開発の仮説 「日常の学習における協同的・探究的活動」「学校内外の多様な人との交流を伴う課題研究」「グローバル社会を直接体験する海外交流」の充実によって、グローバル・リーダーに必要な知的総合力や主体的にコミュニティに参画し、新たな可能性や価値を見出す力を身に付けた人材を育成することができる。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究発表会（ポスターセッション）を開催し、広く公開する。</li> <li>・本校の取り組みや研究成果をホームページ等で公表する。</li> <li>・毎年の成果発表会で、研究成果の普及を図るとともに、その成果物を冊子にまとめ、広く配布をする。</li> <li>・県内他校主催の「国際高校生フォーラム」（韓国や県内外の高校生が参加し、現代社会の諸課題の解決策を模索する取組）へ参加して、成果を発表する。</li> </ul>					
	⑧-2 課題研究	<p><b>(1) 課題研究内容</b> 「グローバル化の中の地域創生」を課題研究の学校統一テーマとする。 鳥取大学乾燥地研究センターは、これまで鳥取の砂丘地での農業技術の研究・開発に取り組む、現在、世界の乾燥地における砂漠化防止や農業生産の向上、健康問題などの課題の克服に向けて取り組んでいる。この活動によって、困難な状況の中で新たな可能性や価値を見出しグローバルに展開し、地域や世界に貢献してきた。これをひとつのモデルとして学校統一テーマを設定した。さらに、この統一テーマの下に三つの大テーマA、B、Cを設定して課題研究に取り組む。</p>					

	<p>A. 「グローバルな社会における豊かな地域づくり」  B. 「持続可能な社会と環境」  C. 「グローバル化の中の人間と科学」</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>・実施方法  課題研究は「思索と表現」の名称で「総合的な学習の時間」に実施する。  &lt;前期&gt; 1年生は「思索と表現」を進めていくうえで必要な基礎力を養成する。2・3年生は、テーマ別に縦割りで班を編成し、連携指導者の助言を受けながら調査・研究する。前期末の発表に向けてポスターを制作し、発表を行う。発表は、県内の高等学校や近隣の中学校、保護者などへ公開する。  &lt;後期&gt; 全校生徒を対象に統一テーマに関連する本の著者を招いて「著者と語る講演会」を開催する。生徒の主体的な取組となるよう生徒実行委員会を編成する。また、1・2年生は、クラスや学年で活動し、テーマに関連したレポートや論文を作成し、輪読会などで議論を深め優秀作品を選出する。</p> <p>・検証評価  課題研究の評価は、生徒によるポートフォリオを使った自己評価、ルーブリック評価、アンケート調査を行い、分析・検討の上、課題となる問題点を特定し、次年度へのプログラムの検証・改善を行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>  なし</p>
<p>⑧ -3 上記 以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <p>(i) 日常の授業における協同的・探究的学習の推進  日常の授業において、積極的に協同学習や探究学習を取り入れる。また、ICTの活用を推進し、情報活用力を高めるとともに、協同的・探究的学習の深化を図る。</p> <p>(ii) 外国語によるコミュニケーション能力・論理的思考力の向上のための授業研究  英語の授業において、英語でのコミュニケーション能力と論理的思考力を養い、グローバルイシューを含む社会的課題に対する関心を高め、理解を深めることを目的とする。</p> <p>(iii) 海外交流の実施  学校内外における様々な海外交流の機会を提供し、交流に積極的な生徒だけではなく、一歩踏み出せない生徒に対しても、行動・実践する意欲を高めることを目的とする。  (i)～(iii)について、生徒のアンケートやルーブリック評価を実施し、評価・検証を行う。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>  なし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <p>(i) 外国人留学生の受け入れ  A F SやY F U等の長期留学生を、積極的に受け入れる。</p> <p>(ii) 各種講演会と座談会の開催  J I C A職員や青年海外協力隊経験者による講演会および座談会など、世界につながる経験として実施する。</p> <p>(iii) 自主的参加の国際理解・異文化交流イベントへの参加  各種国際交流イベントを生徒へ紹介し、自主的参加を推奨し、各種ボランティアスタッフとしての参加など、生徒が自主的に参加する場を提供していく。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、平成24年度から「協同的な学習」の研究、平成25年度から「課題研究(思索と表現)」に取組み、平成26年度は文部科学省S G H事業のアソシエイト校の指定を受け、県教育委員会の支援の下に生徒海外研修(豪州アデレード大学研修)やICTの活用に関する研究に取組み、グローバル人材の育成を図っている。</p>

ふりがな	とっとりけんりつとっとりにしこうがっこう	指定期間	27～31
学校名	鳥取県立鳥取西高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	300人
	SGH対象生徒以外:	134人	145人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 活動に取り組みたいと考えている生徒は多い。休日や放課後に実施できるように情報提供に努める。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:	21人	23人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学を希望する生徒が50名程度おり、その生徒の希望をかなえられるように取り組む。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	30%	21%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 留学などに興味がある生徒は多い。課題研究に取り組むことでより一層グローバルな視点を広げていく。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:	15人	18人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大会等の情報提供に努め、参加する生徒を積極的に支援する。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	15%
	SGH対象生徒以外:	8%	6%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英語科で取り組んでいる事業を中心に、課題研究で英語を活用する機会をつくる。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
------	------	------	------	------	------	------	-----------

国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合

a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	42%	38%	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: 課題研究を実施することで、大学が求める学力を身に付けさせ、生徒の進路実現を図る。

海外大学へ進学する生徒の人数

b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	3人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: 課題研究や国際交流を通して生徒に自信をつけさせ、進学希望生徒を積極的に後押ししていく。

SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合

c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%

目標設定の考え方: 課題研究での研究から興味関心や探究心を育成し、進路選択につなげていく。

大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数

d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人

目標設定の考え方: 課題研究や国際交流の経験から海外に興味関心を持ち、自主的に行動する生徒を育成する。

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	13人	人	人	人	人	人	25人
目標設定の考え方: アデレード大学に15人、春川高校に10人の生徒の訪問を実現させる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	560人
目標設定の考え方: 鳥取大学との連携を強化し、第1・2学年生徒の大学訪問を実現する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	1校	校	校	校	校	校	3校
目標設定の考え方: アデレード大学と春川高校を中心に、新たに連携できる大学・高校を探していく。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	48人	人	人	人	人	人	180人
目標設定の考え方: 鳥取大学の教員とTAを定期的に招聘し、課題研究を充実させる。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	1人	人	人	人	人	人	20名
目標設定の考え方: JICAなど国際機関の方をアドバイザーとして招聘し、課題研究を充実させる。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	8人	45人	人	人	人	人	人	100名
目標設定の考え方: 校外の大会等の情報提供の仕方を改善し、積極的に参加する環境づくりに努める。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1人	1人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 従来通り、希望があれば積極的に受け入れる。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	2回
目標設定の考え方: 協調学習に関する研究発表を1回、課題研究に関する研究発表を1回実施する。								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 平成27年度からホームページの整備を行う。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	959	958	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							